

令和2年度第2回八雲町地域公共交通会議 議事記録

令和2年9月4日(金) 14時00分～14時45分

【出席者】

(敬称略)

所属・役職	氏名
国土交通省北海道運輸局函館運輸支局 輸送・監査担当首席運輸企画専門官	經 亀 真 利
国土交通省北海道運輸局函館運輸支局 企画調整担当首席運輸企画専門官	(随 行) 吳 憲 一 郎
北海道渡島総合振興局地域創生部 地域政策課新幹線推進室長	鈴 木 健 司
函館バス株式会社 バス事業部次長	金 岩 祐 也
函館バス株式会社 バス事業部管理課	(随 行) 小 間 遥 世
有限会社八雲ハイヤー 代表取締役	大 久 保 健 一
八雲町町内会等連絡協議会 会長	大 野 尚 司
函館地区交通運輸産業労働組合協議会 事務局長	大 岩 伸 一
熊石町内会連絡協議会長	井 口 啓 吉
八雲町 町長 (地域公共交通会議会長)	岩 村 克 詔
落部連合町内会 会長	知 野 修 司
(オブザーバー) 北海道檜山振興局地域創生部 地域政策課長	幅 口 一 路
(オブザーバー) せたな町 まちづくり推進課長	小 板 橋 司
(オブザーバー) せたな町 まちづくり推進課主幹	松 原 孝 樹
(関係課) 学校教育課 課長	石 坂 浩 太 郎
(関係課) 学校教育課 総務係	柴 田 裕 介
(関係課) 地域振興課 課長	野 口 義 人
八雲町政策推進課 課長	竹 内 友 身
八雲町政策推進課 企画係長	多 田 玲 央 奈
八雲町政策推進課 企画係	浮 須 慎 太 郎

令和2年度第2回八雲町地域公共交通会議

議事記録

1 開 会 政策推進課 竹内課長進行

2 委嘱状交付 机上配布

3 会長挨拶 岩村町長 ※以降、町長進行

4 報告事項

①桧山海岸線予約バス試験運行調査結果について～質疑等なし

(政策推進課 浮須)

報告事項①の資料をご覧ください。

これより、桧山海岸線予約バス試験運行調査結果についてご説明します。

2ページをご覧ください。予約バス試験運行は、せたな町にあります有限会社 東ハイヤーを運行主体とし、せたな町太田バス停～八雲町熊石バス停間の区間で、7月20日～8月22日までの34日間で1日3往復のダイヤで実施し、合計運行回数40回、延べ87人の利用がございました。乗車人数により車両のサイズを変更して、効率の良い運行を行うため、40回の運行のうち、車両の内訳は記載のとおりとなっております。利用者からは、「家の前まで迎えに来て、目的地まで行けるので良い」というご意見を多数いただきました。4ページをご覧ください。こちらは、試験運行結果の詳細となっております、いつどの便を何名利用したのか、また、運行区間が記載されておりますが、運行結果の分析について5ページをご覧くださいながら、ご説明いたします。

1点目が、2つのグラフで表している「乗車人数の分析」です。乗車人数の中で1人での利用が最も多く、全体の約5割を占めております。1回あたりの平均乗車人数は2.2人となっております。

6ページをご覧ください。こちらでは「便ごとの利用状況の分析」について示しており、太田バス停から熊石バス停へ向かう上りの便の利用が全体の6割で、熊石国保病院への往復が多かったと想定されます。

8ページをご覧ください。「曜日ごとの利用状況の分析」については、金曜日が最も多く、次いで水曜日の利用が多くなっております。

9ページをご覧ください。「区間ごとの運行状況の分析」については、せたな町にある久遠東部～熊石の運行が最も多く、熊石国保病院への通院に多く使われていることがわかります。

11ページ以降につきましては、今年3月にせたな町(単独)で実施した、試験運行結果となっておりますので、後ほどご覧ください。コロナウイルスの影響で利用者は今回実施した試験運行の1/4程度となっております。

以上、桧山海岸線予約バス試験運行調査結果についての説明とさせていただきます。

②函館バス桧山海岸線の路線廃止について～質疑等なし

(函館バス 金岩次長)

大成から熊石間で予約バスの実証実験が行われ、町民の利便性向上が図られていおります。当社の路線バスで大成から江差を結ぶ、複数町にまたがった桧山海岸線がございましたが、そちらが予約バスに切り替わっていくにあたり、今後、江差と熊石を結ぶ路線として走ることとなり、桧山海岸線の便数は現行どおり6便で運行

し、路線廃止という言葉ではありますが、予約バスと函館バスで桧山海岸線を接続して、移動の足を確保して参りますので、引き続き函館バスのご利用をお願いいたします。

5 協議事項

①桧山海岸線予約バス本格運行の実施について～承認

(政策推進課 浮須)

協議事項①の資料をご覧ください。

これより、桧山海岸線予約バス本格運行の実施についてご説明いたします。

2ページをご覧ください。試験運行の際は、3往復のダイヤで設定しておりましたが、住民説明会や利用者の声から4つの視点から、本格運行では7往復のダイヤ設定とさせていただいております。

4つの視点は、左側に記載のある「1 町外への通院需要への対応」「2 熊石国保病院への通院の利便性確保」「3 高校生の通学の足の確保」「4 今金高等養護学校生の帰省の足の確保」の4点について考慮し、ダイヤの設定をいたしました。

3ページ、4ページは運行ダイヤを記載しており、太田行の1便目を除き、既存の函館バスの路線に接続する形となっております。また、3ページにある熊石行の5便目と4ページある太田行の4便目は、今金高等養護学校生の帰省対応の便として設定しており、日祝運休の便については函館バスの運行に統一した形で設定しております。

5ページ、6ページは予約バスの運行ダイヤと接続する路線バスの関係性を示しております。黄色で示しているのが予約バスで、函館バスの路線へスムーズに接続できるようなダイヤ設定となっております。

以上、桧山海岸線予約バス本格運行の実施についての説明とさせていただきます。

②八雲町における自家用有償運送について～承認

(学校教育課 石坂課長)

八雲町教育委員会 学校教育課の石坂と申します。

それでは、協議事項の2、八雲町における自家用有償運送、スクールバスによる住民混乗について、ご説明させていただきます。

資料1・2ページには、添付書類の一覧を掲載しておりますが、個人情報保護の観点から、一部添付していない書類もございますので、ご了承願います。

今回更新登録をさせていただきたい路線は、資料3ページの更新登録申請書の中段にある2路線で、住初町・上八雲間を運行している上八雲線と、落部・上の湯間を運行している上の湯線でございます。

どちらの路線も、かつては函館バスの営業路線でございましたが、地域の人口減少などに伴い、利用者が減少したことにより、上八雲線は、昭和44年に、上の湯線は、昭和51年に、それぞれ運行が休止となった経過がございます。

休止後、上八雲地区では、地域住民がバス組合を組織し、町の助成金等により、定期バスを運行していた時期もございましたが、経費の関係もあり廃止となっております。

その後、上八雲地区では、大関中学校が八雲中学校と、上の湯地区では、上の湯中学校が落部中学校と、それぞれ統廃合したことにより、スクールバスの運行が始まり、余席を利用した住民混乗運行を、有償運送の許可を得てスタートし、現在に至っております。

ここ数年の利用人数は、人口の減少とともに利用者が少なくなっているところではございますが、高齢者

や自家用車の無い方、高校生などの交通の確保、住民福祉の向上からも重要な路線であると考えていることから、引き続き更新をお願いするものであります。

申請書類につきましては、更新であるため、大きな変更点はございませんので、具体的な内容説明は割愛させていただきます。

以上、雑駁でございますが、八雲町における自家用有償運送についての説明とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

6 その他

①熊石バス停の待合環境の整備について

(政策推進課 浮須)

熊石バス停の待合環境の整備については、現在、バス停付近に待合施設がない状況であり、10月1日より本格運行を開始するにあたり、八雲地域にある使用していないバス停(スクールバス用)を9月末までに移設し、使用することとしております。

また、今金高等養護学校生については、帰省の際に最大13名の利用があり、帰省に使用する便で、熊石バス停の乗り換え時間が40分程度あることから、桧山振興局を通して学校側と調整し、熊石総合支所の図書スペース及び展示スペース・トイレ等を活用して、学生の待合環境についても充実させたいと考えております。

②函館運輸支局より情報提供(函館運輸支局 経亀専門官)

以上